

## 富士吉田地域でのお祭りについて『湖上祭と火祭り』



毎年8月1日から5日までの期間、富士五湖では日ごとに五つの湖をめぐる花火大会が開催されます。1日に山中湖で行われる報潮祭を皮切りに2日は西湖の竜宮祭、3日は本栖湖の神湖祭、4日は精進湖の涼湖祭、5日のファイナルは河口湖で行われる湖上祭です。特に富士吉田キャンパスからほど近い河口湖での湖上祭は花火の数も多く、たくさんの観光客で賑わう花火大会となっています。平成23年度から本学もこの湖上祭に協賛のかたちで参加しており、スターメインという種類の大きな花火を打ち上げて、教職員も夏の夜の花火を満喫しています。

また、キャンパスのある富士吉田市では毎年8月26日に「吉田の火祭り」を開催しています。吉田の火祭りは市内にある北口本宮富士浅間神社にほど近い上宿交差点から金鳥居までの間に松明が立ち並び、日が暮れるとその松明に火が点り、町が火の海のように姿を変える大祭です。日本三奇祭のひとつとして数えられ、海外からの観光客も多く見受けられます。学生の皆さんはこの時期、夏期一時退寮期間中のため富士吉田寮には在寮していませんが、観光で一度はその迫力を体験してみたいかがでしょうか。

編集委員 渡邊 倫

## 富士吉田校舎での地域ボランティア活動

本学富士吉田校舎に学ぶ学生たちは、折にふれて様々な地域交流活動に関わります。毎月1回土曜日は「サタデークラブ」に参加しています。サタデークラブとは、地域の方々と障害のある児童・生徒とが互いに理解し合うため、両者が関わる機会として、隣町の富士河口湖町にある山梨県立ふじごくら支援学校のPTA ボランティア部が主催しているものです。平成24年度は5月19日・6月30日・12月1日に富士吉田校舎の学生が参加し、児童・生徒と一緒にレクリエーションをおこないました。特に12月1日は富士吉田校舎にサタデークラブを招き、クリスマスパーティーの一環として学生がイベント内容から企画し、大変好評でした。一緒に汗を流したり作業をしたりすることで、障害のある児童・生徒に対する理解を深めることができ、非常に有意義な活動となっています。

前期退寮日翌日となる7月27日(金)には、第65回となる「富士登山競争」が開催され、上級生も含め総勢約40名の学生が救護ボランティアとして参加しました。学生は、主催者である市の職員の指示のもと、他のボランティアの方々と協力してランナーの救護活動に汗を流しました。

10月に開催された「吉田のうまいもの祭り」には約40名、11月の「富士河口湖ジャズフェスティバル」には、出演する学生も含め約50名が参加しました。学生は、物品販売や設営などの運営補助をしつつ、場外に出店された露店の料理に舌鼓を打ち、地域に貢献をしながら自らも楽しむという、理想的な関係が見られました。学生は、それぞれが学内の日常生活からは得がたい貴重な体験ができ、満足感をもって活動を終えました。

編集委員 高田中成



## 国際交流PSUサマープログラムに参加して

医学部 安田大志 (秀明高等学校出身)

私は一年生の夏、ポートランドへのプログラムに参加しました。貴重な経験、交流、学習にあふれためったに味わうことのできない充実したプログラムになりました。例えば、素晴らしい先生に教わった英会話の授業では、毎日楽しく積極的に参加できました。教室の中だけでなく展示される授業はただただ楽しいものでした。さらに、ラフティングなどのアクティビティ、ホームレスシェルターでのボランティア、他にも、多くの病院見学、同じ学部の米国の大学生との対話まで、多様な機会が与えられました。米国の医療制度を学び日本との大きな違いを知り、最新の医療技術の見学もできて、アメリカの医療を肌で感じられる貴重な体験でした。

ただ、素晴らしいプログラムが用意されていたが、自分の意識がなければここまで充実したものにはならなかったと感じています。それは、プログラムに参加した初日、ボスに教わった「no pain, no gain」の精神でした。これを私は、初めてのことに積極的に挑戦することと捉え、初日から最終日まで実践しました。もちろん、ときには恥をかいてしまうこともありました。耐え難いこともありました。しかし、得るものがより大きかったです。失敗したことも今ではいい思い出です。

なにより大きな財産となった、ホームステイファミリー。今でも交流が続いていて、自分の第二の家族と感じています。本当に得るものが多かったプログラムでした。今後はこれらの貴重な体験を教訓として活かし、良き医療人を目指して精進していきたいと思っています。



## 国際交流プログラム

昭和大学では、国際的な視野を持った医療人を育てることを目指しています。そのために各キャンパス・学部とも海外研修・実習の企画及び実施に力を入れています。新入生のみなさん、この機会を大いに利用し見聞を広めてください。

### ・1年次夏期研修 (ポートランド州立大学サマープログラム) (アメリカ)

【募集説明会】4月下旬 富士吉田キャンパス 【日程】7月31日～8月28日(約1ヶ月間)

【対象】各学部1年 【人数】25名程度

### ・JCC サマープログラム (ニューヨーク州ジェームスタウン) (アメリカ)

【募集説明会】5月頃 【日程】7月下旬～8月上旬(3週間) 【対象】各学部1～5年 【人数】10名程度

※ 上記以外にも学部毎、学年毎に様々な国際交流プログラムが組まれています。ホームページに詳細な掲載があります。(http://www.showa-u.ac.jp)

※ 上記のような国際交流プログラムに参加する場合、TOEIC-IP テストのスコア等、語学力の成績を証明する書類を提出していただきます。無きさないよう保管しておいてください。

■お問い合わせ: 国際交流センター tel: 03-3784-8266 (担当: 橋本・平泉・三浦)

e-mail: int-exc@ofc.showa-u.ac.jp

大学では学生の国際交流を推進するため、海外実習・研修補助制度を設けて積極的に支援しています。

## 食育について

ご入学おめでとうございます。

親元を離れ見知らぬ街「富士吉田」での寮生活に不安を抱きながら、バスに乗車したことでしよう。御殿場市須走から富士吉田に向かう東富士五湖道路の左手からは、好天にそびえる雄大な富士の姿が皆さんを迎えます。

食育とは健全な食生活を送るための能力を子供の時から身につけさせようというものです。大学生にもなって食育? と思うかもしれませんが。

子供の頃は「なんでも好き嫌いなく食べようね」とか「○○には体を丈夫にする働きがあるんだよ」と言われれば、素直に頑張って食べた記憶はありませんか? しかし出来上がった? 大人(大学生)に同じことを言っても、「嫌いだからいらぬ」と聞き入れてはもらえないこともあります。

皆さんの先輩のなかには、食事時でもお盆の上では携帯電話が乗り場所を占領し、ご飯も汁物もおかずも正しく置くことができない人もいました。

「朝はギリギリまで寝たい」、「魚は嫌だから○○へ食事に行こう」、「並ぶのが面倒臭い」、また何かにつけて食事を計画しては連絡もなく大勢で外出。自宅では家族に「今日は友達と出かけるから夕飯はいらないよ」と伝えていたはずです。

ヘルシー志向の割には、サラダにたっぷりドレッシングやマヨネーズをかけたり、近隣の量販店の買物袋いっぱいのお菓子やカップ麺などを持って坂下を歩いている姿をみかけたり、それを控えればいいのに……と思うばかりです。

「同じ釜の飯を食う」ということわざを聞いたことがありますか? 生活する場(寝起き)が同じで、一つの釜で炊いたご飯を分け合って食べるという意味で、家族のように毎日一緒に過ごし、苦しいことや楽しいことを共に感じて過ごすということ、とても親しい間柄(関係)のことを言うようです。最近は諸事情から家族ですら皆で食卓を囲む時間が減っているとも聞きます。一緒に食卓を囲むのは仲良くなるための近道です。

富士吉田での全寮制共同生活は将来チーム医療を担う医療人となるための第一歩、どのような状況下でも適応できる体づくりに大切な「食」について見直すいい機会です。

食べ過ぎや不摂生によるメタボや生活習慣病の予防はもちろん、容姿ばかりを気にしすぎ無理なダイエットによる偏食が若者のやせ体型や低体重児出産の増加を招いていることも問題とされています。特に女子学生は将来の出産に備えての体づくりに大切な時期が今なのだとことを心に留めておいてください。

ここでの食事は朝・昼・夕食を3食きちんと食べることにバランスのとれた食生活を身につけることが目的です。地元食材の使用、行事食など皆さんに満足していただけるような献立になっております。

2年次から一人暮らしをする人は自炊の参考にしてください。また、自宅から通う人には自分を支えてくれる家族の有難さなどを食生活から感じ取ってほしいと願っています。

食堂 栄養士 天野、宮下



## 編集後記

新入生の皆さんが入寮するこの時期、富士吉田校舎でもいよいよ桜の開花が迫ってまいります。雪を頂いた富士山とキャンパス内の桜が映える景色を、是非楽しんでいただければと思います。

さて、「白樺・百合」も第18号、区切りの20号も目前となりました。新入生の皆さんはこれから始まる一年間の寮生活に不安を感じていることと思われますが、第2・3面の記事をもとに富士吉田校舎での流れを把握していただき、大いに学び、大いに楽しんでいただき、多くのものを得て上級学年へ進んでください。

次回、第19号の発行は7月に予定しております。よろしくお願いたします。

編集委員 高田中成

# 白樺・百合

昭和大学  
富士吉田キャンパスだより  
第18号 2013.4.11 発行

発行責任者 富士吉田教育部長 小出良平  
編集責任者 富士吉田教育部広報委員長 倉田知光  
〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田 4562  
TEL 0555-22-4403



富士吉田教育部 高田中成 撮影

## 新入生の皆さんを熱烈歓迎いたします。

昭和大学学長 片桐 敬

ここ富士吉田キャンパスに新入生の皆さんをお迎えし、すばらしい一年間の全寮制生活を送っていただけるように、職員一同、熱烈歓迎を申し上げます。寮は単なる住居ではなく、学習の場でもあります。一部屋四名で、考え方や立場が異なる皆さんが、学部の枠を超えて共同生活で一年間を過ごします。最初は緊張されて不安を感じられると思いますが、心配は全く不要です。寮則を守り、他人を少しでも思いやる考えを持つことにより、一週間もすればたちまち打ち解けて一生の親友ができるのがほとんどです。この寮生活で、将来、医療人として活躍されるときに必要な、チーム医療の基本が身につきます。この全寮制のシステムは、全国的にも注目されております。全寮制教育は、昭和39年(1964年)以来、すでに49年を経過しており、過去の寮生活経験者からも高い評価を受けています。

本学のモットーは、「至誠一貫」であります。何事も真心をもって精一杯努力するというこの四文字は、その精神を自ら実行することが求められます。本学は、昭和3年(1928年)の創立以来85年間、「至誠一貫」の精神のもと、社会に貢献する優れた医療人の育成を継続してまいりました。

学業も怠りなく進めてください。医療人になるためには、深い教養とともに、人を愛する心、優れた人間性を持つことが必要です。その意味で、基本的な人間形成、精神的な成熟やコミュニケーション能力の獲得、あるいは専門的な学習へ進む準備をする一年間です。受験勉強から解放された気持ちから心が緩んでのんびりしてしまうことのないように、講義や実習に邁進してください。

もう一つ重要なのが、クラブ活動への積極的な参加です。霊峰富士のもと、白樺や赤松の林に囲まれたすばらしい環境の中で自分自身を鍛え、楽しみ、仲間との共同作業を行う、極めて重要なものであります。運動に、文化的に、クラブ活動に専心できるのは今しかありません。私たち職員一同も、すばらしい生活の場となるように、努力をいたします。この一年間が皆さんの輝かしい将来の第一歩となることを祈念しております。

## ようこそ富士吉田キャンパスへ

富士吉田教育部長 小出良平

いつになく寒かった冬もあけ、待ち遠しかった春が、富士吉田キャンパスに今年も一年生の諸君と一緒にやってきました。教職員一同、皆さんを心より歓迎します。

ここ富士吉田キャンパスは霊峰富士山の北側、標高約900mに位置します。梅も桜も同時に咲きますし、入寮してからしばらくは、朝晩に暖房が必要です。

さて、将来、医療人を目指している諸君は、第一学年をこの地で過ごします。この一年間はその方向性を確認したり、自立的な生活を送るためにも大変重要な一年となります。富士吉田キャンパスライフは、四人一部屋での全寮生活で、学部混合で構成されています。この寮は単なる生活する住居ではなく、医療人を目指す諸君が、お互いの考えを理解し、将来チーム医療を行っていくためのコミュニケーション能力を学習する学舎でもあります。この全寮制度は49年におよぶ伝統をもち、私もこの寮の3期生で、女子学生も富士吉田で過ごすようになった最初の学年でした。私は、昭和大学病院から富士吉田キャンパスに赴任して2年目になります。昭和大学病院の目標のひとつは5Sの徹底です。5Sとは、整理、整頓、清掃、清潔、躰です。病院では質の高い医療の提供だけではなく、医療事故や院内感染の防止のために5Sを励行しています。そこで、昨年同様に本年も5Sを皆さんの富士吉田キャンパスライフの目標として、掲げたいと思います。一年生から医療人の素養を身につけたいと思いますので、ご家族もぜひご協力ください。

また、この富士吉田キャンパスの整備には多くの卒業生が後輩の為に寄付くださったお金を毎年使わせていただいています。次年度以降に使う皆さんの後輩のために、施設や備品を大切に使うてください。さらに、昨年より新しい施設として昭和大学富士吉田自然教育園を開きました。

その他、クラブ活動も大変盛んです。医療系の大学は講義や実習で毎日忙しいのですが、クラブ活動を通じて学べることは沢山あります。皆さんも是非ひとつはクラブに参加してください。

それでは、これから思い出深い、充実した一年間を一緒に過ごしましょう。

### 広報誌名称について

全寮制を特徴とする富士吉田校舎学生寮は「白樺寮(男子寮)」「百合寮(女子寮)」の二寮からスタートしました。「赤松寮」「すみれ寮」を加えて四寮となった現在も、白樺・百合という名称は受け継がれています。この名を冠した「白樺・百合」という広報誌の名称には、過去・現在・未来の学生たちが日ごとに成長をどけて前進しつつも、常に初心を忘れず、伝統を受け継いでくれることへの願いが込められています。

## 富士吉田での学習について

医学部 國府田華子 (小林聖心女子学院高等学校出身)

富士吉田での生活は、一日一日が私にとってのかけがえのない思い出です。オリエンテーションや寮祭、クリスマスパーティーなど様々なイベントで盛りだくさんの寮生活ですが、今回は、富士吉田での学習についてお話ししたいと思います。

1年次の主な試験は前期、後期にそれぞれある期末試験です。試験2週間前頃から、寮の中に「勉強しよう」という空気が漂いはじめます。もちろん、普段から授業の予習復習を怠らなければ試験前に焦ることもないのですが、試験日前日に、皆で明け方まで必死に勉強したことも、楽しい思い出の一つです。物理が得意で皆の質問に答えてくれる人、ノートをまとめるのが上手い人、ずっと起きていて寝てしまった人を起こしてくれる人。試験勉強をするときには、一人ひとりが重要な役割を担っています。一人でひたすら勉強するのではなく、お互いに教え合ったことで、理解を深めることができたと思います。このように、ずっと一緒にいて勉強できるという環境は、本当に素晴らしいものでした。

ここでは、試験勉強についての話が中心となりましたが、寮で学ぶことは授業で得る知識だけではありません。日々の生活からも多くのことを学びました。ここで得たことが、何よりも私を成長させてくれたと思います。寮生活がどのようなものになるかは、みなさん次第です。色々なことにチャレンジして、充実した寮生活を送ってください。



## 地域交流について

歯学部 関 美穂 (富士見高等学校出身)

富士吉田キャンパスでは地域ならではのボランティアの募集がたくさんあります。せっかく富士吉田にいるのだから、ここでしかできないことをしようと思い、私は、「吉田のうまいもの祭」と「河口湖JAZZフェス」のボランティアに参加しました。「うまいもの祭」では主に物品の販売やごみ拾い、後片付け、時には吉田のグルメを堪能し、率直な感想のか? でした。「河口湖JAZZフェス」では会場案内や焼きそば作り、後片付けなどを行ないました。そして、空き時間には河口湖を散策したり、オルゴールを聴いてとても充実した日になりました。日ごろは学内で関ることのない同級生と知り合えたり大学近辺の飲食店のオーナーとも知り合えたりと、人脈が広がることもボランティアのいいところだと思います。汗を流した後に観光という余録の恵より一層楽しめると思います。



はボランティアがこんなに楽しくてよいのでは会場案内や焼きそば作り、後片付け時には河口湖を散策したり、オルゴールを聴いてとても充実した日になりました。日ごろは学内で関ることのない同級生と知り合えたり大学近辺の飲食店のオーナーとも知り合えたりと、人脈が広がることもボランティアのいいところだと思います。汗を流した後に観光という余録の恵より一層楽しめると思います。

## 部屋コンの思い出

薬学部 稲本真弓 (トキワ松学園高等学校出身)

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。これから皆さんは富士吉田での寮生活が始まります。期待に胸が膨らむ一方、友人ができるだろうかと不安に思う人もいでしょう。そんな不安を一気に解消してくれるのが「部屋コン」という制度です。

部屋コンは男子寮と女子寮の数部屋ずつで構成される20人前後のグループで、部屋コンごとに指導担任が決まっています。入学してすぐの顔合わせのときはお互いぎこちない雰囲気でしたが、5月のオリエンテーション、6月の寮祭・体育祭などを通して、次第に打ち解け合うことができました。私の部屋コンでは、部屋コンの友人のひとりが誕生日を迎えると、日付が変わった瞬間に全員でLINE上にお祝いのメッセージを送ったり、その月の誕生日の人をお祝いする会を開いたりしました。前期には試験中にも関わらず、誕生日の仲間を祝うため、水遊びをしたりもしました。振り返ると、一緒に生活していなければいけないことばかりで、部屋コンの友人と一緒に過ごした時間は私にとって大切な思い出になりました。

他にも部屋コンでの思い出はたくさんあります。吉田での生活を送るうえで、部屋コンは一番付き合いが長くなる仲間であり、支えになる存在です。部屋コンの友人をはじめ、吉田でできる友人と楽しく充実した時間を、みなさんも送ってください。



入学式/入寮式  
4月

オリエンテーション  
5月

寮祭/体育祭  
6月

前期定期試験/退寮  
7月

夏休み  
8月



オープンキャンパス



初年次体験実習



クリスマスパーティー



2月 3月

2年生へ進級  
旗の台・横浜  
キャンパスへ



退寮式



吉田の火祭り

帰寮/初年次体験実習  
9月

10月

11月

クリスマスパーティー/後期定期試験/退寮式/完全退寮  
12月

春休み  
1月

## オリエンテーション

作業療法学科 小林真二  
(上田東高等学校出身)



入学してまもなく、部屋コン対抗でタイムを競い合うオリエンテーションに参加しました。このオリエンテーションは地図を頼りにさまざまなポイントをまわり、ゴールを目指すというものです。この頃はまだ部屋コンメンバーと深い関わりもなく、何をすることも緊張の連続でした。しかし、ゴールへ近づくにつれてメンバー一人ひとりの性格がわかり、気がつくとも緊張感が楽しさへと変わっていました。地元の話や大学生活の話などのさまざまな話題で盛り上がり、楽しみながら参加することができました。私の部屋コンの順位は振るいませんでしたが、最後に笑顔でゴールできたことが最高の思い出になっています。

コース途中で道に迷うこともありましたが、声を掛け合い、知恵を出し合いながらのオリエンテーションはコミュニケーションの大切さを実感するいい機会となりました。このオリエンテーションをきっかけに学部を越えた友人をつくることのできたことは私にとってとても大きな経験であり、富士吉田キャンパスでの忘れられない思い出のひとつになっています。

## 寮祭・クリスマスパーティー

看護学科 芦田泰穂 (錦城高等学校出身)

私は寮祭では中夜祭を担当し、クリスマスパーティーでは前・後夜祭やフロアなどで模擬店を出しました。友達や教職員、地域の方とできました。また、まだ知らない学生との交流もあり友人の輪がとてしみに became.

クリスマスパーティーは実は学校行事ではなく、学生が自主的にいほど豪華で楽しくとても盛り上がりました。実行委員会本部の人画し道路や学内にクリスマスツリーやサンタ、トナカイなどの電飾ファッションショーをおこないました。学生寮のフロア対抗企画でしむことができました。昨年以上に素晴らしく豪華だと好評でした。寮祭とクリスマスパーティーの最後には花火が上がりました。グラウンドから上がる花火は色や形もとりどり、大きく空いっぱい開く花はとてもきれいなものでした。

実行委員の仕事はやる事が多く毎日とても大変でしたが、部門員や本部の方の協力もあり、一から自分たちで作りに上げることも貴重な体験になりました。



## 寮生活について

理学療法学科 田邊紫織 (清瀬高等学校出身)

富士吉田での寮生活には、一言では表すことができないほどの思い出や学びがたくさんつまっています。入学当初は知らないばかりで不安もありますが、同じ部屋のメンバーをはじめ、フロアの人とすぐに仲良くなれます。部活や学部横断授業などを通して、学部を越えた友達をつくることもできます。そうしてできた友人たちと悩みを相談しあったり、たわいのないことを話したり、ときには将来のことを語り合ったりします。将来のことを話し合うと目標をもって昭和に入学してきたのだと実感することもありました。

寮祭やクリスマスパーティーなどのイベントもありますが、私は寮生活の真の楽しさは、夜中にみんなで語り明かしたり、零時ちょうどに誕生日を祝ったりする日々の生活の中にあると思います。週末に河口湖へ出かけたり、テスト前には夜中まで勉強を教えあったりしたこともよい思い出です。今年のゆり寮ではハロウィンパーティーを企画し、仮装大会やビンゴをして盛り上がりもしました。このような生活は学生寮ならではの、他の大学では絶対にできません。

自分達の工夫次第で、楽しみをいくらでもつくる事ができることが、寮生活のすばらしさ。様々なことに積極的に参加し、友達をおおいに増やして、富士吉田での生活を充実したものにしてください。

